

Graduation Policy (GP)	
記入者氏名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース音楽教育選修
細分名	
教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。</p>	
教育学部の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1．人間と教育に関わる事象を、問題意識をもって思考、調査、分析することができる。 2．自らの思考、調査、分析の結果を適切な方法で表現することができる。 3．自らの専門において習得した知識や能力を、実践に活用することができる。 	
学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。また、教職を目指すものとして、自らの生き方について謙虚に反省できる人材を養成する。</p>	
学校教育教員養成課程の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1．教育の理念や教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。 2．児童・生徒の心身の発達段階や教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。 3．道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。 4．参観・参加実習、介護等体験実習、基本実習、委託実習および事前・事後指導の経験を通して教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。 	
教科教育コース音楽教育選修の教育目的	
<p>多様な個性をもった現在の児童・生徒の発達の糧となるような音楽科教育を実践できる人材を養成する。</p>	
教科教育コース音楽教育選修の Graduation Policy	

1. 音楽理論基礎能力：音楽理論および音楽史の基礎的な知識を身につけ、さまざまな音楽的活動に生かすことができる。
2. 音感基礎能力：音程・リズム・移調等の音感力を習得し、音楽表現の基礎として生かすことができる。
3. 演奏表現基礎能力：声楽および器楽の基本的な演奏技術を身につけ、音楽科教育の演奏表現活動に生かすことができる。
4. 作・編曲基礎能力：簡単な作曲を行うことができる能力、教材を編曲できる能力を身につけて、音楽科教育の創作・表現活動に生かすことができる。
5. 教育実践能力：音楽科教育の指導内容と方法を理論的・実践的に学んで、1 から 5 で獲得した音楽実践能力を基に、教育実践をすることができる。